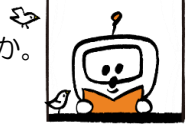


### 校内一斉読書の感想

11月7日(火) LHRの時間、読書週間にちなみ、図書委員3名の朗読放送とともに、芥川龍之介『蜘蛛の糸』を全校生徒で一斉に読みました。

同じ時間に同じ本の読書をして、みなさんはどんな感想を持ちましたか？

読書体験を共有し、作者や他者の意見を通して、考えを深める機会となったのではないのでしょうか。みなさんの感想を紹介します。



○芥川作品は、描写がとても細かく、美しい風景が想像できて大好きです。『蜘蛛の糸』は初めて読みましたが、深く考えさせられる作品でした。お釈迦様が、犍陀多のたった一つした善い行いを見ていて、せっかくチャンスをくださったのに、犍陀多が自分のことばかり考えたせいで、また地獄に戻されてしまい、もったいないと思いました。もし自分が犍陀多の立場だったら、私も自分だけ助かりたいと考えるでしょう。しかし、蜘蛛の糸が切れる前に登りきれないように頑張ると思います。この経験を犍陀多の次の人生に生かしてほしいです。私もこの物語を教訓の一つとしてこれからの生活に生かしたいです。もっと読書をしようと思います。(1年)

○この物語には、人の心理がとてもよく映し出されていました。良心、自分のことしか考えない心、そして、欲は、誰でも少しは持っているものです。もし、蜘蛛の糸を登っているとき、下りろと言わずに譲り合っていたら、エピソードは変わっていたでしょうか。この物語は、利他の心が大切であるということを伝えたいのだと感じました。(1年)

○犍陀多は、糸を登ってきた他の罪人に対し、他の言葉を考えることができなかったのだろうかと思いました。一度言ってしまったことは後戻りできません。その言葉で一生後悔することになるかもしれないので、他の人のことを考えて発言したいです。(1年)

○朗読をしてくれた人たちが、間を空けてゆっくり読み、言葉もはっきりしていて、とても聞きやすかったです。あまり、こういう機会はないので、たまには全体で読書をするのも、落ち着きがあっていいなと思いました。(1年)

○『蜘蛛の糸』を読むのは初めてでしたが、とても印象に残るものでした。とても小さい良いことの報いが、自分が思ってもいないときに救いとなることもあるかもしれませんが、窮地に立たされたとき、ほとんどの人は浅ましい自己中心的な考えになるのではないかと思います。(2年)

○この物語は前に何度か読んだことがあったので、また考える機会があってよかった。極楽の美しさと地獄の怖さが文章で表現され、物語の世界が目の前に広がる気がした。この物語を読んで、改めて自分のことを振り返ることができたし、作者がどんなことを伝えようとしているのかがわかった。(2年)

○日常でも、犍陀多のように自分さえよければという考える人もいると思います。自分の心に余裕がなくなったときに、人の本性は現れるのだと思いました。物語は短いけれど、内容はとても濃いものでした。たくさんの本を読んで、いろいろなことを学びたいです。(2年)

○良いことも悪いことも、誰かが必ず見ていて、それが自分に返ってくるのではないかと思います。また、人は見かけだけでなく、中身も重要だと思いました。(2年)